

愛知県立日進高等学校

防災ミュージカル

「はるかかのひまわり」台本

ミュージカル

はるかのひまわり

企画・台本・演出 外山 恵子

第1幕

前奏曲

パワーポイントを写す

曲（大きな音で）とパワーポイントの文字のみ

会場は照明を落とし、暗くする。

阪神淡路大震災の被害状況などをテロップで流す。

1995年1月17日午前5時46分

阪神淡路大震災

マグニチュード7.3

全半壊した住宅 約25万棟

けがをした人 約4万4000人

命をおとした人 約6400人

学校の体育館や公園に避難した人 約30万人

疎開した児童 約1万2000人

震災が奪ったもの

命 仕事 家族 街並み 思い出

・・・たった 1秒先が予知できない人間の限界・・・

曲調変わる。

パワーポイントで、ひまわりの映像を映す。

照明は暗いままで、ナレーターのみスポットライトをあてる。

ナレーション ある 夏のこと。

まだ ガレキと ほこりのにおいが のこる、

神戸の まちの かたすみに、

一りんの 大きな ひまわりが さきました。

大空に むかって 力いっぱいさく ひまわりに、

神戸の ひとたちは、ある 女の子の 名まえを つけて

よぶように になりました。

この ひまわりは、
阪神淡路大震災で おおくのものを うしなった
神戸のひとたちに、
どんなことがあっても 生きぬく 勇気と 希望を
あたえてくれたのです。

音、パワーポイントを消し、場内真っ暗になる。
幕を開ける。
しばらくして、ぱっと照明を明るくする。

震災当日の夜

家族4人、食卓について夕食のシーン。

母 「さあ、ご飯ですよ」

いつか 「ああ、おなかすいたよー」

父 「わあ おいしそうだな」

はるか 「おかあさん、今日のごはんは何？」

全員、パスタをフォークにひっかけて、上に持ち上げる。

母 「今日は、ナポリタンよ」

全員 「ナポリタン！」

全員で「愛のナポリタン」を踊りだす。

幕が閉まる。

第2幕

大震災の前夜

幕が開く。

はるかと母が 隣同士のふとんに寝ている。

父 いつか パジャマ姿で 挨拶。

父 「おやすみ はるか かあさん」

父 退場。

はるか 「おやすみなさい おとうさん」
母 「おやすみなさい」

いつか 「おやすみなさい」
はるか 「おやすみなさい おねえちゃん」
母 「おやすみなさい いつか
勉強も ほどほどにね
明日は 学校なんだから」

いつか 「はーい
いつか 退場。」

母 電気を消して 布団にはいる
はるかも 布団にはいる
照明をおとす
幕閉じる。

パワーポイントを写す。

テロップ

その 翌日の、あけがた。
1月17日 午前5時46分。
あの 瞬間、神戸が 壊れた！。

ゴー。という 音とともに、街が 破壊される
映像を 映し出す。

いつか 倒壊した家屋の下敷きになっている。
(幕から、上半身を出して横たわっている)
弱弱しく叫ぶ。

いつか 「たすけてー。おとーさーん。おかーさーん。
はるかー。だれかー たすけてー」

近所のおじさんが通りかかる。

近所のおじさん 「いつかちゃん。大丈夫か」

近所のおじさん いつかを瓦礫の中から助け出す。
助け出された いつか、泣きながら 訴える。

いつか

「おじさん。おとうさんが、おかあさんが、はるかが
まだ、家の下敷きになってるんだよ。

たすけてよー。たすけてよー」

近所のおじさん

「よし わかった いつかちゃん。

おじさんが すぐに みんなを 助けてやるから。

もう 大丈夫だ。 安心しな」

いつか うなづく。

近所のおじさん、父、母を助け出す。

いつか

「おとうさん おかあさん」

父・母

「いつか」

3人で抱き合う。

母

「はるかは？」

いつか

「はるかが いないよー」

父

「はるかー」

近所のおじさん(2人) はるかを担架で運んでくる。

担架を 地面におろす。

おじさん うつむいて 首を横に振る。

母、はるかの 亡骸にしがみつく。

母

「はるかー」

父、地面にひれ伏して慟哭する。

いつか、母の背中にしがみつく。

いつか 立ち上がり 「Kiss me good bay」を歌う。

いつか

「ラララ・・・」

幕が閉じる。

第3幕

大震災後

幕が開く。

仮設住宅のちゃぶ台で、酒を飲み酔いつぶれる父。
部屋の隅で、はるかの写真を 見つめ続ける母。

いつか

「おとうさん。そんなに お酒ばかり のんだら体、
駄目になっちゃうよ」

父

「うるさい。おれなんか どうなったって いいんだ。
どうせ、はるかは もう いないんだから」

いつか

「おかあさん。 今日、学校なんだけど。 お弁当作ってくれる？」

母、はるかの写真をなぜながら。

いつかの声は聞こえないかのように、はるかの写真に語りかける。

母

「はるか。 今、天国で何してるの？ お母さんも すぐに
はるかのところへ 行くからね。 もうちよつとの 辛抱だよ
はるか。 待っててね」

いつか

「お父さんも、お母さんも、はるか はるか はるか
はるかは もう この世には いないのに。

あたしは 生きているのよ。生きて あなた達の
眼の前にいるのよ。 もっと あたしを みてよ。

(間)

そうだ あたしは 生きてちゃ いけなかったんだ。
はるかじゃなくて あたしが 死ねばよかったんだ」

いつか 膝をかかえて うずくまる。

照明が消え、いつかに スポットライトが当たる。

ナレーション

あの大震災の中、せつかく 助かった 貴重な命。
だが、家族を亡くした悲しさを 受け止めるのが 精一杯で、
残った 命をいたわる 余裕は 家族に なかった。
そのような中、いつかは、生き残ったことに、罪悪感すら抱き、
学校にも行けなくなり、じつと家に閉じこもるようになってしまった。

パワーポイントで、夏、秋、冬、春の映像を写す。
再び、夏の映像に戻る。ミンミンゼミの声。

近所のおじさん

「いつかちゃん。いつかちゃん。
いるかーい。たいへんだー。たいへんだー。
ちよっと、おじさんと いっしょに来てくれー」

近所のおじさんといつか 手をつないで走る。

パワーポイントで、一面ひまわりのシーンを写す。

近所のおじさん

「いつかちゃん みてくれ。このひまわり。」

いつか

「ここは 震災前に家があった場所」

近所のおじさん

「そうだよ。はるかちゃんが かわいがっていた ペットの
ハムスターの えさのひまわりの種が 自然に咲いたんだよ」

いつか

「はるかの ひまわり？」

近所のおじさん

「そうだよ いつかちゃん。はるかちゃんのひまわりだよ
きれいだなー まるで おれたちを 励ましてるみたいだな」

いつか

「はるかの 声が聞こえる。おねえちゃん がんばってて言ってる
はるかの分まで がんばって生きてって」

(間)

いつか ひまわりに向かって叫ぶ。

いつか

「はるかー」

はるかの霊、登場。

「千の風になって」を歌う。

はるか

「わたしの お墓の前で 泣かないでください……」

歌い終わり はるかの霊 退場。

近所のおじさん

「いつかちゃん。このひまわりを 日本中に咲かせないか」

いつか

「それ どういうこと？」

近所のおじさん

「このひまわりの種を 日本中に配って はるかちゃんのひまわりで
いっぱいにするんだよ。いつかちゃんのように 災害で苦しんでいる
人たちを 勇気づけるんだよ」

いつか

「そんなこと わたしとおじさん二人じゃ 無理だよ」

友人たち登場。

友人 1

「いつか わたし達も 手伝うわ」

友人 2

「僕たちも 手伝うよ」

いつか

「みんな」(驚いた様子で)

友人全員

「ふたりが出会った事に・・・」

song for . . . をみんなで合唱する。

神戸の人たちの笑顔やがんばりの様子を背景に
キヤストの名がテロップで流れる

歌が終わり 幕が下りる。

